

銀河レポート401

No.65
10月号

発行日：令和2年10月1日
編集＆発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700

そらんぼ四日市

検索

10月の星空

秋の四辺形

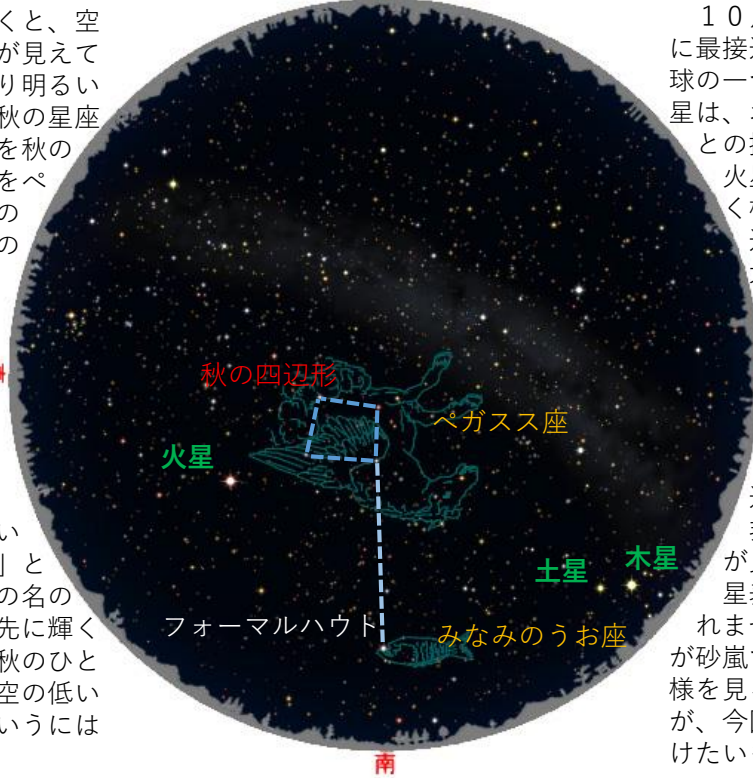
真南を向いて顔をあげていくと、空の高いところに大きな四角形が見えてきます。2等星ばかりであり明るい星ではありませんが、これは秋の星座探しの目印となる形で、名前を秋の四辺形と言います。またの名をペガサスの四辺形。ペガサス座の胴体の部分にもあたるためこのように呼ばれます。

フォーマルハウト

秋の四辺形の西側の二つの星を、南の空の方に伸ばしていくと、明るい星が一つ見つかります。これは秋の空で唯一の1等星で、フォーマルハウトといいます。カッコいい響きですが、意味は「魚の口」と少し期待外れでしょうか。その名の通り、みなみのうお座の口の先に輝く星です。日本では古くから「秋のひとつぼし」とも呼ばれました。空の低いところで輝くため、1等星というには少し心もとない星です。

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

10月15日21時の星図



火星の準大接近

10月6日(火)には火星が地球に最接近します。太陽系の中で、地球の一つ外側をまわる惑星である火星は、およそ2年2か月ごとに地球との接近を繰り返します。ただし、火星の軌道は完全な円形ではなく楕円形をしているため、最接近といってもその都度距離が大きく異なるのが特徴です。例えば、2018年の大接近時は5759万km。今回の準大接近では6207万kmと、およそ500万kmも異なります。離れた分迫力は少し落ちてしまいますが、それでも最接近時の明るさは-2.6等級と、非常に明るく輝きます。条件が良ければ、小型望遠鏡でも火星表面の模様が見られるかもしれません。前回の大接近時は火星が砂嵐で覆われてしまい、表面の模様を見ることはできませんでした。今回こそ赤い地表を目に焼き付けたいものです。

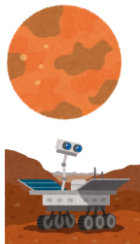
ガリレオ教室

火星のひみつ

10月ごろ地球に近づく火星には、さまざまなひみつがあります。地球と似ている部分や、想像もつかないような火星の景色について一緒に学んでいきましょう。

日時：10月11日(日)
①11:00~11:20
②14:00~14:20

場所：1階 講座室
料金：無料



あなたが選ぶ もう一度見たいファミリー番組 1・2・3

11月3日(火・祝)からの秋番組を、夏のファミリー番組をご覧いただいたみなさんの投票で選んでいただきました。これまでの観覧者数上位5作品+今年の春番組「かいけつゾロリ ZZのひみつ」の中から選ばれた、上位3作品を3位から順に各2週間ずつ投映します。詳しくはHPをご覧ください。

一位
三〇三票



©白井優人/双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK

二位
二五九票



©2017 原ゆたか/ボプラ社、映画かいけつゾロリ製作委員会

三位
一九七票



© Moomin Characters™

★★観望会★★

《博物館主催さらら号観望会》

場所：博物館前市民公園

◇10月1日(木) 19:00~20:30
「中秋の名月と木星、土星を見よう」

◇10月24日(土) 18:30~20:00
「月と3惑星を見よう」

◇10月29日(木) 18:30~20:00
「粟名月と3惑星を見よう」

※天候不良時は中止
※当日受付・参加無料
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

10月の月

2日 満月
10日 下弦
17日 新月
23日 上弦
31日 満月

編集後記

中秋の名月と聞くと目玉焼きの入ったハンバーガーだったり、お団子だったりがい思い浮かぶ筆者です。満月は古くから望月(もちづき)とも言われ、欠けた部分のない様子が好まれていました。だからこそ満月を見ると、お腹の方まで満たしたくなってしまうのかもしれないですね。